

キャラクター名
 桃花染薊 (つきそめ あざみ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	18	性別	♀
覚醒	生誕	衝動	恐怖	初期侵食率	48	%
出自	天涯孤独	経験	殺傷	邂逅	いいひと	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	61
肉体	2	1	2			5	行動値	5
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	5
精神	3	0	0			3	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
▼蛇王の外套		0	装甲7			
▼全コンボ		0	4d10+			城塞+盾+氷雪+ダスト
Kalt Ruine ~79		0	24	15		
Kalt Ruine ~99		0	32	18		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
蛇王の外套		7			

合計装甲: 7 合計回避: 0

所持品	
コネ: 霧谷雄吾	
思い出の一品: ピンキーリング	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
D: 遺産継承者	P 有為	N 嫌気		
D: 起源種	P 好奇心	N 恐怖		
七海ちゃん RE	P 執着	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
グラビティテリトリー	4	-	常時					
効果:	最大HP+LVx7(28)							
不死身の炎	3	1d	セット		自身	自動	100	
効果:	シーン中HP&最大+LVx10(50)							
氷の城塞	3	3	セット		自身	自動		
効果:	R中ダメージ-LVx3(9/12/15/18)							
炎陣	1	2	オート		自身	自動		
効果:	加減							
氷盾	3	2	オート		自身	自動		
効果:	G値+LVx5(15/20/25/30)							
蒼き悪魔	5	3	オート		自身	自動		
効果:	G時反射ダメージ-LVx3(15/18/21/24)							
氷雪の守護	3	3	オート		自身	自動		
効果:	ダメージ-LV+1D(4/5/6)							
ダイヤモンドダスト	1	3	オート		自身	自動		
効果:	★ダメージ軽減+3D							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100	
効果:	判定1回自動失敗							
黄: 不死者の恩寵	3	5	クリナップ		自身	自動		
効果:	回復LV+2D+肉体(5/6/7)							
ディメンジョンゲート	★							
効果:	存在し得ない空間を作る							
ポケットディメンジョン	★	3	メジャー					
効果:	空間を歪め知ってる場所に移動する							
凍結保存	★							
効果:	人体を凍結							

生まれたときからけげ物だった。だから独りぼっちでも仕方ないと思っていた。
 世界は人間のためのもので、わたしに居場所なんてないのが当たり前だから。
 それなのに、笑いかけてくれた人がいた。
 ひとりであつたわたしに、手を差し伸べてくれた人がいた。

うれしかった。
 だから、もっと仲良くなりたかったの。
 ———— ねえ、わたし、間違っていないよね？
 * * * *

ずっと一人だった薊にとって、友達は未知の存在。
 どうあるべきかなど誰も教えてはくれなかったので、本を見て学ぶくらいしか手段がなかった。
 あるとき、雑誌で偶然目にした記事……そこに書かれていたのは「お揃いコーデ」「ペアアクセ」「仲良しの秘訣」などの見出し。
 自分と同じくらいの少女たちが、髪型を似せたり雑貨のアクセサリでお揃いになったり、或いは双子コーデなどのスナップを載せたり。
 人間関係の基礎すら知らなかった薊は、「同じであればあるほど仲良しの証である」と勘違いしてしまった。

だからまず、彼女の境遇を同じにした。
 天涯孤独で、誰も笑いかけてくれない。
 大好きなたった一人を除いては、誰も。